もくじ

ー第 33 号ー

１）　２０２４年新年互礼会並びに臨時総会のご案内　……　1
２）　令和５年度　総会・懇親会のご報告　……　3
３）　令和５年度　総会参加者　……　4
４）　総会報告　決算資料　……　5
５）　総会報告　事業計画・予算資料　……　6
６）　会長挨拶　岡崎　謙二……　7
７）　来賓挨拶　平井　龍太郎……　9
８）　乾杯の音頭と挨拶　内田　博夫……　１１
９）　令和５年　総会・懇親会アルバム　……　１２
１０）　名誉会員 佐武博司氏著本の紹介　……　１７
１１）　故 徳永俊彦氏　追悼文　……　１８
１２）　故 富永雅敏氏　追悼文　……　２１

１３）会員寄稿
　１．私のボランティア活動の一つ、外国人への観光ガイドを楽しむ　畑　邦子……　２３
　２．JR 乗り尽くし旅度々日記 (3)　西山　隆……　２５
　３．早瀬三郎名誉会員　百寿のお祝い　山邑　陽一……　２９
　４．ウクライナ・中国と大阪・神戸　山邑　陽一……　２９
　５．日綿実業株式会社　社内報 1971 年６月　No.87　日野　育子……　３１

１４）　秋の親睦ウォーキング　ご報告　……　３５
１５）　社友会からのお知らせ　……　３９
１６）　訃報　……　４０
１７）　令和５年度ニチメン大阪会員名簿　……　４１
１８）　世話人連絡先　……　４３
１９）　編集後記　……　４４

２０２４年新年互礼会並びに臨時総会のご案内

ニチメン大阪社友会
会長　岡崎　謙二

２０２４年新年互礼会は、通常通り以下の通り開催いたします。
尚、前回の総会開催の折にも、ご連絡しました様に、双日（株）様より、「２０２４年中に、双日関係４社友会の統合」が提案されており、統合に関する臨時総会も合わせ開催する予定にしておりますので、出来るだけ沢山のご出席をお願い致します
現在、双日（株）人事部主導により、各４社友会実務代表者が、集まり、新しい社友会の体制などを打ち合わせ中ですが、11 月末或いは 12 月中までずれ込む可能性もありますので、その場合は、新年互礼会とは別に、改めて臨時総会を開催する可能性もあること、お含み置きおよびご理解を頂きたくお願い致します。
（編集担当注；本号校了時点では統合具体案は検討継続中です。）
ニチメン大阪社友会の将来を決める大事な臨時総会となりますので、是非とも大勢の会員の皆様方のご参加をお待ちしております。

日　　時　：２０２４年1月１６日（火）
受　付　　開　始　：１０時３０分より
臨　時　　総　会　：１１時より
新年互礼会・懇親会　：１２時１５分頃より
終　　会　：１４時頃を予定
場　　所　：「ホテル阪神大阪」１０階ボールルーム

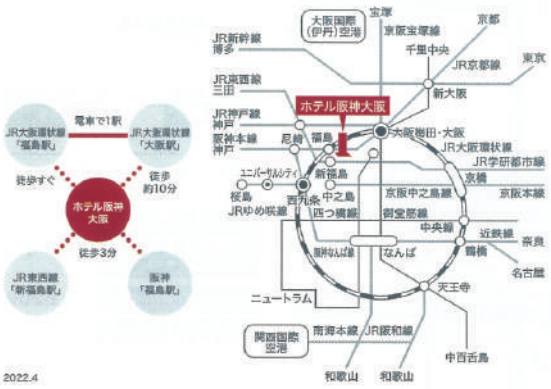
１．来場時の検温実施　：
　会場設置の検温器で 37.5 度以上の方はご入場をご遠慮いただきます。
２．座席指定　：
　昨年同様、着席ビュッフェスタイルで料理は各自で運ぶスタイルで行う予定です。
　座席指定は行いませんが、一度着席された座席からの移動はご遠慮ください。
３．退出時　：
　密を避けるため、係員の指示に従っていただきます。

以上

電車をご利用の場合

JR京都線 大阪方面 新大阪駅	1駅	JR大阪環状線 内回り/福島方面 大阪駅	1駅	JR大阪環状線 福島駅
			桜橋口 から	徒歩 10分
JR東西線 北新地駅	1駅	JR東西線 新福島駅	出口① から	徒歩 3分
阪神 大阪梅田駅	1駅	阪神 福島駅	西出口② から	徒歩 3分
京阪中之島線 中之島駅			出口⑥ から	徒歩 10分

駅から徒歩すぐ



2022.4

HOTEL HANSHIN OSAKA

INFORMATION MAP

阪急阪神第一ホテルグループ

ホテル阪神 大阪

〒553-0003
大阪市福島区福島 5丁目6番16号
TEL:06-6344-1661(代表)
ホテル阪神大阪

ブライダルサロン
TEL:06-6344-4661(直通)
平 日 12:00〜19:00
土日祝 10:00〜19:00
定休日 火曜・水曜（祝日除く）

宴会セールス
TEL:06-6343-6611(直通)
FAX:06-6343-6620

宿泊予約
TEL:06-6344-5661(直通)
FAX:06-6344-9860

ホテル阪神大阪 周辺マップ

飛行機をご利用の場合

ITM 大阪国際(伊丹)空港から エアポートリムジンバスで

空港からバスで ▶ 約30分

ホテル前へリムジンバスが毎日発着

ホテル前発 6時〜8時
ホテル前着 18時〜21時

KIX 関西国際空港から エアポートリムジンバスで

空港からバスで ▶ 約 60〜70 分

ハービENTバス停留所から
徒歩で ▶ 約10分
タクシーで ▶ 約 3 分

KIX JR 関西国際空港から 関空快速で

空港からJRで ▶ 約60分

JR 関西空港駅 — JR 福島駅

お車をご利用の場合

阪神高速 ● 出入橋 ● 梅田 ● 福島 — 出口から ▶ 約 5 分
大阪国際(伊丹)空港 ▶ 約20分
関西国際空港 ▶ 約60分

＊駐車スペースに限りがございますので予めご了承ください。

名誉会員　佐武　博司氏著
「チャレンジ人生～認知症の妻に綴る、６０数年ぶりのラブレター」のご紹介

認知症の奥様へ送り続けられた心温まるラブレターが、この度本となり本年８月に出版されました。
この本について、佐武氏が加入されているウエッブサイト Daily の市口精一郎様がご紹介されていますので、それをここに掲載させていただきます。
市口様はニチメン大阪社友会、会報３１号にて「日綿ビルマ回顧録」を紹介して下さった方で、今回の掲載の許可も快諾いただいております。

チャレンジド人生～認知症の妻に綴る、60 数年ぶりのラブレター～
佐武博司著 幻冬舎 2023 年 8 月 18 日発行 定価 900 円＋税

Daily の仲間である佐武さんの 3 冊目の本です。グループホームで暮らす妻へ安心と元気を届けるために書き綴った『ラブレター』です。ご本人も頚髄損傷の障害を抱え現在マンション内のレストランで 3 食をいただくなどしながらリハビリ生活をされてています。多くの困難を乗り越えて、2017 年からは介護保険要介護 5 が要介護 1 になるまで回復されました。ところが奥さんが、認知症のため 2022 年 2 月からグループホームに入られました。

本書では、佐武さんの言葉の他、子や孫、その他の親族、グループホームのスタッフ、元職場 (商社勤務) の先輩の言葉が添えられ、著述に客観性を持たせ物語を明るいものにしています。ぜひご一読をお願いします。

私には、改めて離れ離れになっても家族のきずなの大切さを痛感させる本でした。

追伸・克明南部連合自治会映画会「PLAN 75」
中略

架空の現代日本において、75 歳以上の高齢者に安楽死する権利が認められます。PLAN75 を申請したホテルの元客室清掃員女性 (78 歳) や 75 歳の誕生日に PLAN の申込した男性 (長い間付き合いのなかった甥以外に身寄りのない男性) とその関係者の思いを描いた暗い映画です。

画面も暗く、当然悲しい物語ですから、高齢者向きではありません。それでも観客数は私が予想した以上に多くありました。とっくに 75 歳を超えた私も、画面に近い前の方の席で、観ながら、人生をチャレンジド精神でポジティブに生きておられる前項の佐武さんとはまた別の人生もあるのだと考えていました。

以上

故 徳永俊彦氏 追悼文

徳永俊彦さんを偲んで

矢嶋　正孝

旧ニチメン大阪自動車部は、コロナ惨禍で中止していた毎年 12 月の忘年会を今年は 4 年振りに開催を決定、梅田の『河久』を予約しました。しかしながら、現在参加メンバーの中で最年長であり、部の業績に最も貢献されたレジェンドである徳永俊彦さんの訃報に接し、大変残念でなりません（6 月 6 日ご逝去、享年 84 歳)。この訃報を、徳永さんをよくご存知の皆さんに送信したところ、海外の取引先を含め、数多くの皆さんから弔慰のメッセージが届き、それらを纏め、英文は和文の説明を付加し、徳永さんの奥さまにお届けしました。

筆者は（矢嶋 正孝、1975 年入社)、新入社員の研修期間に大阪機械総務部で繊維機械の輸出業務を担当、3 年後に営業部である「大阪輸送機械部・第 2 課」に異動となり、その時の直属の上司が徳永さんでした。当時の徳永さんは、ギョロッとした大きな目、天然パーマのボサボサの髪型、大股で肩を揺らし山歩きのような歩行、話し方もボソッとユックリした口調で、これらの風貌からは「世界を駆け巡る商社マン」と云う雰囲気は全く無く、それから 20 年後、徳永さんは役員として輸送機械の本部長に就任されましたが、風貌は相変わらずの徳永さんでした。その徳永さんの、会社の業績に貢献された数多い武勇伝や、公私に亘るズッコケ話の一部を、在りし日の徳永さんを偲んで本会報に寄稿させて頂きます。

徳永さんは、昭和 37 年 (1962 年) 大阪大学・経済学部を卒業し日綿實業に入社されました。阪大 4 回生の就活時に「先に内定していた三井物産を断って日綿に就職したので、物産に推薦状を書いた教授に叱られた」との事です。当時の日綿は物産と業界3位を競っていたとは言え、それから 13 年後に日綿に入社した筆者には当時の就活状況がよく分からず、物産を断った理由を聞いてみました。すると徳永さんの返答は「物産の内定者説明会の日と、阪大山岳部のメンバーでスキーに行く日が重なり、大学時代最後のスキーを優先した」との事ですが、この様な説明を聞いても、筆者の様な凡人には理解が困難な理由、優先の順位でした。

大阪自動車部の主要取引先はダイハツさんですが、このダイハツ工業は明治時代に 大阪高等工業学校 (後の大阪大学・工学部) の内燃機関研究陣が起案した「産学協同の発動機製造会社」であり、産業革命後の大阪で「公的機関が起業に協力し、世界に通じる産業を！」というのは、日本綿花の創設と同じ歴史観があります。徳永さんがそれを意識されてダイハツ案件を担当されたわけではありませんが、当部と阪大とダイハツさん の「ご縁」は徳永さんから始まり、1980 年代後半には当部所属の阪大出身者が合計 8 名にも。

ところで、筆者が自動車部へ配属された当時は、石油ショックから 5 年が経過し世界の経済が活況を呈し、日本車の生産・販売台数が飛躍的に伸びた時代でした。また、当時の大阪自動車部の取扱いは 40 ケ国近くあり超多忙な毎日でしたので、通常の勤務時間帯に徳永さんや先

輩課員より業務の話を聞く時間は無く、残業が終わった 8 時以降の飲み会で教えて貰う毎日でした。そして、徳永さんより直接依頼された初仕事は「今から、三和銀行の淀屋橋店に行って、この預金通帳から現金 8 百万円を引出し、近くの三菱信託銀行へ届けて欲しい」と、個人の通帳・印鑑・委任状を渡され、直ぐには理解できない依頼事項でした。これは、徳永さんがその日の昼に、ご自宅の新築用代金の一部を支払われる予定でしたが、急に、ダイハツさんより海外顧客との会議の要請があり、そちらを優先され、筆者に 8 百万円支払いの代行を依頼されたようです。「自分なら、他人の、新入社員を信用し、こんな事を頼めるかな？」「就活時の優先順位も理解困難」等々考えながら、8 百万円の札束を入れたカバンを抱えて、御堂筋を早足で歩いていた初仕事を思い出します。

徳永さんの仕事のやり方を背中から見ているだけでも、大変驚いた事や勉強になる事例が多くありました。「この方針が正しい」と決められた際は、その実現には最も効果のある手段を選択されます。例えば、同じニチメン社内の海外支店との間にモメ事が発生、支店の立場を優先する海外支店長に対して、当時は まだ係長であった徳永さんが、何と、社長名を使い海外支店長にテレックスを出電された事がありました (当時のテレックス通信は、全文がローマ字、入出電は部課のアドレスから、文面の最後に出電者の名前を記載) 。当時の上司である 課長 (田中務さん) と 部長 (三好武彦さん) が 出電前にその原稿を見てビックリされ、「徳さん、UYEDA と云う大社長の名前で出電して、もし支店長が社長に直接確認を取ったらどうするん？」と、大変心配そうな表情で聞かれました。ところが徳永さんは「ご心配なく、この支店長にはそんな度胸はありません。例え 社長にバレたとしても、ニチメン全体では当部の方針が正しいので 問題無いです」と、平然とした返答で、それを停止できないお二人は、部長・課長からの「降格人事」も覚悟されたと思います。しかし、そのテレックスが出電された後すぐに海外支店長から返信あり「日本側の方針を全て了解しました。すぐに現地側でもフォローします。」との返答でしたので、お二人は顔を見合わせ、ホッとされていました。

筆者が自動車第二課に移って 1 年間 徳永さんの仕事の進め方を背中から見ていて「この上司の真似は到底無理」と判断しました。一方 その頃、課長以下の社員による「社長への業績報告会」と云う特別企画があり、全社的にも第二課（コード 1554) の業績が目立って好調であった為、社長への報告者の一人に、徳永さんが選抜されました。「徳永さんは、どの武勇伝を、社長の前で発表されるのか」と、楽しみにしていたところ『海外事業の急拡大に伴い、" キャッシュフローと、金利と、為替の管理" による、安定的な利益の確保』という、徳永さんらしくない、財務部が説明するような堅い内容でしたが、意外にも社長からは大変評価されたとの事です。実は、これは筆者が月例の部会で説明した資料 (データ・数式・グラフ) を、徳永さんがそのまま使用して社長へ説明されたもので、これからも、徳永さんからの指示が無くても、このような側面的な業務で 徳永さんのワークをフォローして行く事が「部下としての役割」と理解しました。

その他、徳永さんによる、一般のサラリーマンとか 商社マンでは考えられないエピソードが多々あり、それらの一部を『裕次郎さんとニチメン』と云うタイトルで、2021 年の社友会会報に寄稿しました。また、筆者は 2002 年 10 月豊田通商との ミニM＆Aで当時の所属部員 20 名と豊通へ転籍となりましたが、豊通でもニチメン時代の上司である徳永さんの数々の武

勇伝やエピソードを披露すると、大いにウケました。

今年の『大阪自動車部隊忘年会』では、メンバー皆さんと在りし日の徳永さんを偲びたいと思っています。また、東京自動車部の皆さんも、東阪自動車部の交流や情報共有に貢献され、人情味溢れる徳永さんの事を懐かしく偲ばれているようです。なお、この会報に 10 年前の「2013 年度大阪自動車部隊忘年会」の写真を掲載していますが、このメンバーからは 7 名の方々 (野村さん、若住さん、高橋さん、森さん、井上さん、浦西さん そして 徳永さん) が物故者です。

(文責：矢嶋正孝、昭和 50 年入社、機械)

故 富永雅敏氏 追悼文

富永雅敏君へ「阪神タイガース セ・リーグ制覇おめでとう！！」

龍田　誠一

令和５年６月、富永雅敏君の訃報が入ってきました。

数年前から闘病されていると聞いていましたが５月２６日永眠されたとの事、現実として受け止めることができず大変驚くとともに、残念な気持ちでいっぱいになりました。

富永君の愛する「阪神タイガース」が「アレ」に向けて順調に勝ち進んでいた６月の蒸し暑い日でした。

富永さん (後列左から３人目) お気に入りの１枚。自動シャッターを押し列に戻る途中に雪に足取られ顔から雪に突っ込んだ同期に、皆大笑い！

今から、４７年前の昭和５１年（１９７６年)、当時の日綿実業に入社し大阪本社に配属された同期の仲間達の中で、富永君は何かにつけての中心的な存在でした。

入社後に各部署に配属され、慣れない仕事に夫々が期待と不安を持ちながら過ごした新入社員時代に、富永君が旗振り役となり同期の仲間達とワイワイガヤガヤ過ごした楽しい日々 ----、普段の飲み会をはじめ、正月の八坂神社への初詣、賢島ほかの会社保養所を利用した宴会旅行、家島の民宿で泊りがけの海水浴、信州他へのスキーツアー等々。

前列左から奥さま美津江さん、富永さん

そして何といっても、富永君の強烈な「阪神タイガース愛」。

ニチメン猛虎会の中心として誰もが認める存在でありました。我々新入社員の大半が入居していた完成間もない「苦楽園寮」の４階で、タイガースが勝った夜には大音響の音楽に合わせ「六甲おろし」を絶叫し、今想えばどれだけの者が迷惑を被り、アンチ・タイガースが増えたことか？（笑！）

甲子園でのナイターでタイガースが惜敗したあと、球場から苦楽園寮までの２時間近くを敗戦ショックで深夜にわたりトボトボと歩いて帰り、途中で警察官から職務質問を受けたこともあったそうです。

そして、同期の結婚披露宴では阪神タイガースの応援歌「六甲おろし」の替え歌で富永君が作詞した（多分？）神戸の六甲山ならぬ大阪の生駒山をイメージした「生駒おろし」をみんなで熱唱することが恒例となっていました。

『♪～
生駒おろしに颯爽と
世界を翔ける　ニチメンの
商売の覇気　美（うるわ）しく
輝く我が名ぞ　日綿実業
オウ　オウ　オウオウ　日綿実業
フレ　フレフレフレ　♪』

富永さんご夫婦の結婚披露宴。
勿論「生駒おろし」を大合唱！

大阪の人事部より東京の食糧部に転勤された後も東京ドーム、神宮球場、横浜スタジアムへと応援に出かけられタイガース愛は変わらず、いやより一層深まったとのことです。

そして、今年の１８年振りセリーグ制覇を見届ける事なく旅立たれたのですが、開幕ダッシュの感触から優勝は確信されていたのではと思います。

これからタイガースは日本一への戦いが始まりますが、きっとそちらでも猛虎会を結成し、旗を振りながら先頭にたって応援されることでしょう。

個性の強い我々同期の仲間の中で、富永君は間違いなく中心的存在として輝いていました。純粋で、真っ直ぐで、憎めない熱い男！富永君、ありがとうございました。

最後に同期入社（東京）で食糧部にて同僚だった岡部健太郎君からのメッセージを紹介して富永君への追悼文を終えたいと思います。

『　燃える熱い男でした。
砂糖やチョコレートの原料輸入・国内販売に注いだ情熱に圧倒されました。
その後、チョコレートの原料輸入会社に請われて転職し、同社の業容拡大に大いに貢献されました。
プライベートでは数多いタイガースファンの中でも、断トツの猛虎でした。
阪神ファンにあらずんば、関西人にあらずんば、の誇り高き男でした。
小生、大阪に住んで２０年になりますが、大阪大好きながら関西弁をしゃべれないエセ関西人からすると、富永さんはリアル関西の英雄です。

謹んでお悔やみ申し上げます。
岡部健太郎　』

追記：
やったね、３６年ぶりの日本一！
歓喜の雄叫びを挙げられていることでしょう。

A contribution by the member
会員寄稿

私のボランティア活動の一つ、外国人への観光ガイドを楽しむ

畑　邦子

退職後に見つけ、今も活動しているボランティア活動の一つに外国人観光客からのガイド依頼に応じ、ほぼ一日、基本的には朝９時から18 時まで、大阪・奈良・京都の人気の高い所や行きたいと依頼された場所を訪ね紹介しながら一日ガイドします。依頼者に同行していると昼過ぎぐらいには、お互いに気さくな間柄となり、世間話も交えての観光ガイドを楽しんでいます。そして相手から「私達の所へ来られたらガイドしますよ」と誘っていただけたら、嬉しいかぎりです。

ニチメン大阪社友会会報　No.27 2020 Nov. の P24-26 で、この活動内容を詳細に説明しましたが、今回紹介のガイドは今までとひと味違った内容の依頼でした。以前３年続けて来阪しガイド依頼をされた２人の男性の紹介で私を知ったという女性からの直接ガイド依頼でした。しかしコロナ発生で一旦途切れていましたがその彼女から去年９月下旬にガイド依頼内容の入ったメールが届きました。その内容はカナダで幼稚園の仕事をしている現役の先生であること、2023 年３月５日東京マラソンに参加した後、大阪へ行くので大阪に滞在中に幼稚園を訪問し幼稚園児に授業をしたい。そしてできれば彼女の担当のカナダのクラスの幼児達の絵の作品・メッセージ付きを持参しお互いの幼稚園児どうし交流をしたいとの事。私は彼女の希望を叶えるべく、受け入れてくれる幼稚園を探しましたが、依頼当時は、コロナ対応は、まだ５類扱いではなかったので、受け入れ側の学校からは、接種証明書を要求されたりして、タイトなスケジュールの彼女達（Keri さんとそのお母さん）の対応は難しいと私は察して、私の母校である奈良県橿原市内にある市立 ‘晩成幼稚園’ の校長先生に Keri さんから取り寄せた彼女の資格証明書・自己紹介書を持参して面談、受け入れを御願いすると受け入れを了承と、お返事をいただいた時は感謝でした。それに私の卒業後、幼稚園が今どうなっているのか？４クラスあった事や、近所のクラスメートを懐かしみ、思い出しました。また今の幼稚園児達が英語を母国語とする幼稚園の先生から直接受ける機会が少ない母校の幼稚園児に大いに楽しんでもらえる授業を望み、私も協力をと思い、世界地図、カナダの国旗と日本の国旗を入手して彼女の国と日本の位置関係をそして又、それぞれの国の国旗を紹介するのに使って欲しいと彼女に、当日の教材の一部を提供しました。当日は一時間程のクラスを彼女の英語だけで（私が間に入っての通訳せずに）ダイレクトに英語を感じて英語を学ぶのが良いのではと二人の考えは一致。授業中は一度も彼女の指示とかを私は通訳する事なく進められました。授業は子供達には大きな影響を与えたようで、興奮状態でしたし、先生の行動についていけてない子供も無く、皆なついて行っていました。その後は、大起水産のお寿司屋さんに立ち寄り ‘回転寿司’ を食する機会をと思って４人で立ち寄りましたが、あの回転すし店での迷惑行為動画が SNS で拡散した影響か？レーンは稼働してなく、彼女達は動いてくる寿司をとって食べるのを楽しみにしていたようで、大変残念がっていました。

A contribution by the member
会員寄稿

その後、車で生駒市高山竹林園へ行きそこでは茶筌作りの実演を観察でき、その後、茶室へ移動してのお茶席を。茶室から望める日本庭園の美しさを愛でながら静かな一時を過ごしていただきました。

夕方難波の宿へ早めに戻りたいとの依頼が車中で急にあり急遽、最寄りの近鉄駅で電車に乗り急ぎ難波へ。途中彼女らの話では公道を走るマリオカートに乗りたいので予約するとの事。又今日も忙しいと言いながら大阪滞在を楽しんでいました。後日 Keri さんからの礼状をいただき、その内容の一部を以下します。

Thank you for finding out if the kindergarten kids enjoyed our visit. We truly had the best time with you. My 2 days spent with you will be remembered forever and my heart is full of Kuniko love! I wish for others to experience the time we had with you and your brother. Your heart and knowledge of your country is incredible, and you are an inspiration in kindness to me. It was so special to go back to the school where you were once a student made the day very special.

2023 年 3 月 13 日橿原市立　晩成幼稚園
年長クラス（5 歳児クラスにて）

3 月 12 日野生の動物が好きとの事で、奈良公園へ。鹿と遊ぶ Keri さん

3 月 12 日奈良の猿沢池前にて、日本で幼稚園の先生になれるのを知り感激して

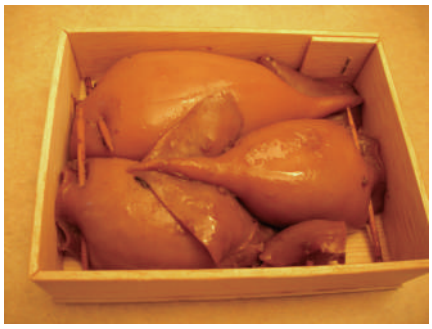
マリオカートに乗り公道を走れご機嫌良い
Keri さんと母

2023 年 10 月 9 日

JR 乗尽くしの旅度々日記　（3）

西山　隆

旅の楽しみの一つは、各地の駅弁を買って車窓風景を眺めながら頬張るときの楽しみです。土地の食文化を彩よく盛り付けているもの、日本でただ一つと存在感を示すものなど多種多様ですが、美味しければ最高です。趣向を凝らした掛紙や容器にも楽しいものがあるし、箸袋にも嗜好を凝らしたものがあります。掛紙や箸袋は旅の思い出にと持ち帰り旅度々のファイルに納めています。駅弁のガイドブックを見るのも楽しいし、旅先でガイドブックに載っていた弁当を食べるのも楽しみの一つです。悔しいことも有ります。楽しみにしていた弁当が予約制で買えなかったり、弁当屋が廃業していたりするとガックリします。弁当の値段は千円前後でまちまちですが、トワイライトエックスプレスで食した弁当は６千円､安くて美味しかったのは北海道森駅の｢いかめし｣駅弁６百円で､値打ちとしては｢いかめし｣の圧勝かな。関西の駅弁でユニークなのは、今はかなり有名になった蛸壺を器にした「ひっぱりだこ飯」弁当ですね。たかが駅弁されど駅弁、ガイドブックも多々出版されていて、奥が深い様に思われます。旅で食べたものは全て写真に収めました。食した駅弁は 70 種くらいかと思います。写真全てをお見せ出来ないのが残念ですが、ごく一部をご覧ください。



北海道森駅の駅弁「いかめし」

青森駅の駅弁「帆立釜めし」

新潟駅の駅弁「はらこめし」

東京駅の駅弁「特選弁当」

甲府駅の駅弁「元気甲斐」

広島駅の駅弁「松茸すきやき弁当」

四国高松駅の駅弁「あなごめし」

九州地方鹿児島駅の駅弁「黒豚めし」

駅弁ガイドブック（ガイドブック左上が兵庫の駅弁「ひっぱりだこ飯」

四国全周 4 泊 5 日の旅 （総計 34 列車、約 1574 ㎞走行）

JR四国路線を全線周遊しました。今回は初めての宿泊一人旅でした。宿泊は全て事前に予約しました。宿泊地に到着後ゆっくりと過ごすためです。鉄道の旅で宿泊地として選ぶポイント、地方であっても駅前にビジネスホテルがある都市としていました。ホテルの近くにコンビニとかファーストフード店があるなどの便利さと鉄道の利用が至便であるからです。朝の出発までに散策が出来る公園とか見物できる史跡とかが出発駅の近くにあれば最高です。乗り換えの時以外は車内の座席で一日を過ごすわけですから、朝の散歩をしてから出発すると充実した一日が過ごせるからです。

第一日：川西池田 8:39 発（福知山線）→尼崎（東海道本線・山陽本線）→相生→岡山（瀬戸大橋線）→坂出（予讃線）→観音寺→伊予西条→松山（向井原・予讃線）→伊予大洲（内子線）→向井原（予讃線）→伊予大洲 21：20 着 (当地泊)（12 列車、約 530 ㎞）
第二日：伊予大洲 7;50 発（予讃線）→宇和島（土讃線）→窪川→高知 17:24 着 (当地泊)（3 列車、約 198 ㎞）
第三日：高知発 7:03 発（土讃線）→阿波池田→琴平→多度津（予讃線）→高松（高徳線）→徳島 (鳴門線)→鳴門→徳島 16:23 着 (当地泊) （7 列車、約 271 ㎞）
第四日：徳島発 6:52 発（牟岐線）→海部→徳島（徳島線）→阿波池田（土讃線・予讃線）→高松 18:05 着（当地泊）（4 列車、約 306 ㎞）
第五日：高松発 6:45 発（予讃線・瀬戸大橋線）→茶屋町 (宇野線）→宇野 (宇野線・瀬戸大橋線）→岡山（赤穂線）→播州赤穂（赤穂線・山陽本線）→姫路 (山陽本線・東海道本線)→尼崎（福知山線）→川西池田 12:23 帰着 （8 列車、約 269 ㎞）

第一日　2006 年 3 月 18 日（土） 雨

JR 乗り尽くし四国全周の旅に出掛ける。今日から春の JR 時刻改正がありスケジュール通りには行かないかもしぬ。あいにく雨が降り出した。（中略）坂出駅で「亀城庵」なるうどん屋に入り、名物と売り文句の「ぶっかけうどん」で昼食する。大根おろし、ネギ、しょうがと冷汁をぶっかけたうどんで腰は強い。美味しかった。讃岐うどん 350 円也と安くて値打ちあり。JR 時刻改正が気になり、駅前サティーに本屋があったので時刻表 4 月号を買う。買って良かった。明日走る予定の伊予大洲～宇和島間の列車時刻に大幅な変更があり、乗継ぎに支障を来すところだった。（中略）観音寺からは伊予西条行普通列車ワンマンカーに乗車し、いよいよ伊予の田舎路線だ。列車にはトイレが付いておらず、我慢出来そうにないときは停車駅で運転手に断って駅のトイレに駆込んで用を足す、運転手も慣れたもので、「待っているから戻ってきたときは声を掛けてね」と気軽に応じくれる。単線ですれ違い待ちが多く時間調整が出来るからの業なのだ。（中略）松山で少し焦った。八幡浜行のホームが分からない。改札口に走り尋ねたら降車したホームの前方に停車していると言う。乗継ぎ時間は 2 分、あわてて引き返し跨線橋を登り下りして何とか間に合った。（中略）伊予大洲に到着、ここから予讃線とループになっている内子線（大洲 ~ 向井原）を走破すべく松山方面に戻るのだが、その列車に乗り損ねるところだった。列車の写真を撮っていたらドアが閉まる。あわてて手動ドアを開け飛び乗った。（中略）本日宿泊予定の伊予大洲にはほぼ予定時刻 21 時 20 分に到着した。駅近くのビジネスホテルに宿泊。到着が遅かったので駅近くのスーパーで弁当を買い、ホテルで遅い夕食する。

第二日　2006 年 3 月 19 日（日）　晴

ホテルの窓から、青空のもと大洲城が遠望された。昨夜スーパーで買ったおにぎりなどで朝食する。昨日は乗り換でバタつきフラフラになりかけたので、余裕を持つため早めに出発する。尤も今日の乗換えは 2 回で乗換え時間はそれぞれ 1 時間以上あるので、チョンボをしない限りゆったりとした旅になるだろう。昨日とはうって変わって晴、車窓の景色が鮮やかに目に入る。桜はまだだが梅花は咲いている。八幡浜で列車待合せ 26 分間停車する。地方の単線での普通列車は行き違い待ちとか特急に追い抜かれたりとかしてロスタイムが多い。アンパンマン列車が松山方面に走り去った。（中略）48 ㎞を約 2 時間掛けて超スローペースで宇和島に着いた。乗換時間があったので、和霊神社など駅付近を散策する。宇和島から高知までの途中駅窪川を目指す。列車は所々で四万十川に寄り沿って走る。四万十川は日本一の清流と言われるように清く澄んでおり、沈下橋がアクセントとなっている。車窓を眺めながら宇和島で買った野菜サンドイッチとジャコ天などで昼食する。窪川で 75 分の乗換時間があるので四国巡礼第 37 番札所の岩本寺まで歩いて参観する。再び高知に向かう。まだ四万十川上流の川沿いを走っている。須崎で 22 分停車、グッドタイミングのトイレ休憩だ。高知には予定時刻に到着した。天気は快晴、四国は季節が早く巡って来るのか緑が関西より濃いように感じられる。

第三日　2006 年 3 月 20 日（月）　晴

今日は高知から高松を経由して徳島に向かう。山間に入りトンネルが続く。運転席越に眺めていると、次から次に新しい景色が目に入ってきて楽しい。一方車掌席から後方を見ていると、次から次へと景色が消え去っていき、何となく侘しさを感じる。来るものと去るものとへの感情の違いが風景にもあるのかなあと思えた。朝の太陽に照らされて、緑が生き生きとしている。（中略）途中の駅でおじさんが運転手にトイレに行きたいと言ったらしく、トイレから戻ってくるまで発車待ちしてくれていた。田舎列車は情があり時に余裕があり、のほほんとしている。（中略）阿波池田に到着、駅前に「へそっ子公園」と面白い名の公園があった。池田は四国の真ん中の臍ということだろう。琴平行に乗車、琴平から多度津へ向かう。琴平で大学生と思われる若者に声を掛けた。「乗り尽しの旅は旅ですか」「いいえ、路面電車の旅です。東京から来て松山に向かうところです、大阪では阪堺電車に乗りました。BS 報道で放映中の路面電車シリーズに魅せられました」。鉄道の旅は色々なジャンルがあって奥が深いのだ。多度津から高松行快速サンポートに乗換える。坂出を通過した。四国西部をグルリと回ったことになる。高松で駅弁の紹介本に掲載されている「あなごめし」を買い、徳島行の車中で昼食する。刻みを入れた穴子の切り身・エビ・錦糸卵などが醤油めしに乗っけられ、ゴボウのあなご巻き・奈良漬け・らっきょ・豆の甘煮などが添えられている（前掲写真ご参照）。美味かった。徳島に到着し向かいのホームに停車している鳴門行に乗車する。トイレ付だ。鳴門には30分ほどで到着した。観光をしようかとも思ったが、JR を乗り尽くすのが旅の目的だし少々風邪気味だったので明日からのことも考え、徳島に戻ってホテルで休むことにした。

第四日　2006 年 3 月 21 日（月）　晴

今日は徳島発牟岐線の乗り尽くしからスタート。（中略）約 1 時間の乗車で阿波橘に着く、先はまだ長い。単調な田園風景が続く。梅や桃の花があちらにポツリこちらにポツリと咲き、路地には水仙の花が群生している。田畑は耕作や一部水張りがなされている。南国は田植えが早く、南下するに連れ水田は田植え準備が整っているようだ。（中略）列車は山間部に入り、エンジン音がしんどそう。登り勾配がきついのだ。トンネルに入ってスピードが増してきた。峠を越えたのだ。由岐駅を越え少し走ると海が見えてきて、すぐに山間部に入りトンネルに入ったり出たりを繰り返しながら走る。北河内駅を過ぎると左手の小高いところにお城が見えてきた。ガイドブックに日和佐城とある。日和佐に着いた。当地の浜はウミガメの産卵来として知られている。（中略）日和佐を出発し海岸線沿いを走る。リアス式海岸線に沿って走る路線の特徴は、トンネル、海、トンネルの連続で、断続する車窓の景色が目まぐるしい。牟岐駅を過ぎて山間部に入り、入り江が見える鯖瀬駅を過ぎ、すぐトンネルに入った。終着駅海部に到着した。駅の外に出たが何にも無いところだ。（中略）折り返し徳島に戻り、駅地下で「エビぶっかけソバ」を食す。祖谷蕎麦の店とか銘を打っていた。この 2 ～ 3 日、野菜や果物を食べていなかったのでイチゴをワンパック買い、食後にコーヒーゼリーを食べた。徳島から四国最後の乗り尽くしとなる徳島線で阿波池田を目指す。（中略）徳島線は吉野川に沿って走る。河岸は広く、雄大な川はゆったりと流れ、列車ものんびり走っている。穴吹駅で列車の行き違い待ち、列車を降りて駅のスタンプをノートに押印する。機会があるごとに各駅のスタンプを集印する目的は、その駅に足跡を残した証とするものだ。（中略）阿波池田 2 度目の到着、ここで四国の JR 路線は全て乗り尽くす。昨日立ち寄った「へそっこ公園」でおやつ、徳島で買ったイチゴを食べる。観光地図を頼りに 30 分ほど街中を歩いた。武家門、観光用に新築されたうだつの建物、池田城跡などを見物した。今日の宿泊地高松へ。讃岐平野に入ると、釣り鐘状の山と台形状の山が多く目に入る。小型の富士と小型の屋島だ。高松に 18:05 到着する。

第五日　2006 年 3 月 22 日（水）　曇 / 雨

高松を出発し宇野を目指す。どんよりと曇っていて瀬戸大橋も海も灰色に霞んでいて墨絵の世界だ。第一日目も雨で今日も雨、今回の旅では瀬戸内大橋は美しい姿を見せてくれなかった。（中略）茶屋町で乗換え宇野に到着、終着駅なので到達記念に一区間キップを買う。今回の旅の終着駅は 5 駅あり、その切符代は計 790 円、全国の終着駅はいくつあってキップ代は幾らになるのだろう、無駄銭か。元々何の用事もないのに、JR 路線を乗り尽くすこと自体無駄な時間と無駄銭を使っているではないか。いやそうではない。ＪＲを乗り尽し各地に足跡を残しつつ観光したり名物弁当を食べたりして楽しみ、達成感も得る、その代償なのだ。終着駅のキップ代も無駄銭ではないのだ。閑なので、つまらないことが頭を過ぎる。岡山行で岡山へ、岡山から赤穂線を乗り尽くすと今回の旅の目的は達成する。岡山から赤穂を目指す。乗車した電車は岩国始発で、かなり長距離を走るローカル列車だ。岡山からは空いていた。この列車は電車なのに、警笛は悲鳴に似た音を発する。一昔前の電気機関車の警笛を思い出させる。播州赤穂から姫路行に乗換える。この電車からようやく都会の電車らしくなり、単線ではあるけれど揺れは少なくスピードが出る。あっと言う間に相生に到着し、今回の旅の乗り尽し目的は達成する。（中略）姫路で新快速近江今津行に乗車し尼崎で宝塚行に乗り換え川西池田に帰着する。

A contribution by the member
会員寄稿

早瀬三郎名誉会員　百寿のお祝い

山邑　陽一

10 月初めに吉本邦晴さんと一緒に、早瀬三郎さんを、介護施設に御見舞しました。添付はそのとき撮った写真3枚です。早瀬さん自身と、岸田総理からのお祝いの書面と、お祝いの銀盃が映っています。

ウクライナ・中国と大阪・神戸

山邑　陽一

コロナ明け？の今年の夏（6-9 月）は、猛暑にもかかわらず転宅の準備も重なって、出かけることが多かった。神戸から大阪・東京・倉敷・芦屋・御影・有馬などを訪れた。9 月 28 日の大阪倶楽部でのピルゼン会（ビール・軽食つき音楽会）では、関西二期会で「ワルキューレ」や「魔笛」を歌う本格派のオペラ歌手二人が、日本ポップスの元祖・服部良一の曲を 15 曲も歌ってくれた。別れのブルース・山寺の和尚さん・雨のブルース・一杯のコーヒーから・懐かしのボレロ・夜のプラットフォーム・蘇州夜曲・湖畔の宿・小雨の丘・東京ブギウギ・胸の振子・東京の屋根の下・青い山脈・銀座カンカン娘・買い物ブギである。最後に 90 人くらいの出席者がみんなで「青い山脈」（良一が車窓から戦後も変わらぬ青い六甲山脈を見て作った・作詞は西条八十）を斉唱した。10 月からの NHK の朝ドラで笠置シヅコが主役となる前祝いでもあって、ふだんはクラシック音楽を聴くことが多い会場が、この日も大いに盛り上がった。

服部良一は大阪生まれ、国民栄誉賞を受けた作曲家で、ウクライナ人エマニュエル・メッテルがその師である。メッテルはロシア革命後の混乱を避けハルピンに居たところを、戦前にＪＯＢＫ・大阪放送局の管弦楽団創設時に日本に招聘され指揮者となって神戸に住み、良一は楽団のメンバーとなった。メッテルは宝塚歌劇場にも関係したから、バレーのプリマドンナだったメッテル夫人もそこで活躍した。メッテルが

A contribution by the member
会員寄稿

京大オーケストラを指揮したときに教えを受けたのが、朝比奈隆であった。９月１０日から１６日までの大阪クラシック週間では、在阪の五つのオーケストラとその楽員たち含む在阪音楽家たちが、市内の数多くある大中小ホールに分かれて演奏し、その６０番目の最終公演をフェスティバル・ホールで私が聴いた。朝比奈が育てた大阪フィルハーモニーが、リストの前奏曲とムソルグスキーの「展覧会の絵」を演奏したが、後者の「キエフの大門」を含む全曲が、美しい音色と堂々たる風格をもち、夜半の公演なのに観衆の拍手が鳴りやまず、指揮者の大植英次が立ち往生した。大阪の音楽をこのように素晴らしくしてくれたその淵源に、メッテルがいた。

ロシア革命後に日本に来たウクライナの音楽家は他にもいて、東京へ来て活躍したピアノのレオ・シロタやヴァイオリンのアレキサンダー・モギレフスキーが有名である。白系ロシア人もたくさん日本に来た。神戸へもたくさん来た。いま私が住むＪＲ垂水駅の駅中店には、モロゾフとゴンチャロフの菓子店が並んで出店しているが、創業者は共にそのとき日本へ来た白系ロシア人である。いまウクライナ戦争のさなかにも、多くのウクライナ人が神戸に来ている。夫婦と娘さんと三人で神戸に来て、バレーを教えている一家もある。歴史は繰り返す。早く戦争をやめてもらいたい。

垂水区には、日本に一つしかない「孫文記念館」が舞子にある。巨大な明石海峡大橋がすぐ横に架かったので、ほとんど橋の下になってしまったが、呉錦堂という戦前に神戸に来た華僑が建てた美しい六角形の洋館である。孫文は死の前年 1924 年に神戸高等女学校で講演し「あなたがた日本民族は、すでに欧米の覇道の文化を手に入れているうえに、またアジアの王道文化の本質をも持っておりますが、今より以後、世界文化の前途に対して、結局、西方覇道の手先となるのか、それとも東方王道の干城となるのか、それはあなたがた日本国民が慎重にお選びになればよいことであります」と述べて、講演を締めくくった。今はこれをそのまま今の中国へ問い返したい。

（2023．9.30）

A contribution by the member
会員寄稿

日綿実業株式会社　社内報 1971年　6月　No.87

日野　育子

今年のお盆の時期、父の故郷の愛媛県伊予市に行ってきました。父が幼い頃からニチメンに入社が決まり上阪するまで暮らしていた実家は、父の一番末の弟が継いでおり、今回、私は私の次男と二人で私の祖父母の墓参りを兼ねて叔父一家に会いに行きました。私が子供の頃、盆正月には必ず家族揃って帰省したものでしたが、今回は十二、三年ぶりで、叔父が同じ場所に建替えた新しい家を訪ねました。庭は畑、菜園、果樹園、ハーブ園、花畑などで彩られており、季節の大地の恵みが味わえ、私達も大阪でその恩恵に預からせてもらっています。久々の再会、叔父の家の庭に続くダイニングで父の思い出話などをしていると、同居している叔父の娘、私の６歳年下の従姉妹が、「これ、祖父ちゃんが大切に保管していた中にあったのよ」と持って来て見せてくれたのが、こちらの月間ニチメン社内報でした。

開いてみると、父がブラジルに駐在していた当時の投稿文が掲載されておりました。

IT 技術で便利且つスピーディな現在の世界とは大きく違っておりましたが、使われていた通信機器は、私もその十数年後に社会人になってから使用したものであり、海外との時差にもどかしさと、反面有難さを感じ乍ら仕事をしたことなど思い出しながら読みました。また、当時はまだ子供であった私ですが聞き覚えのある話しも書かれており大変懐かしく、時代を遡り、数々の思い出がよみがえりました。皆さまの中にも、海外駐在されて、どこか父と重なるようなご体験をされた方々もいらっしゃるのではないかなと想像しまして、こちらに投稿することにいたしました。世界中どことでも即時に繋がり便利でもあり、忙しく過ぎていく今の時代ですが、ああ、こんな時代もあったな、或いは、そうか、そんな時代だったんだな、などとちょっと立ち止まって懐かしく思っていただければ幸いです。（投稿文内のカラー画像は、父のアルバムより抜粋し挿入しました）

海外アチコチ
＝駐在員の一日＝
－ブラジル便り－　　サンパウロ　日野起男

ポンカンの初物が朝食に

故郷のご両親様、久しくご無沙汰の段、おわび申します。お達者ですか。今日はひとつ、ここサンパウロでのわたしたちの元気な生をお話いたしましょう。ブラジルボケか、忘れっぽくなったので、今日のあれこれを中心にね。

A contribution by the member
会員寄稿

そうそう、昨年末、家族帰日のおりには大変お世話になりました。宝塚の家族寮の住み心地は上々だと便りをよこしています。

わたしもこちらで社宅暮らし、桑名副支配人と二人暮らしですが、よく気のつくお手伝いさんがいて、不自由はありません。当地では朝食はごく軽く、コーヒーと卵、くだもの。今朝はポンカンの初物が出ました。このポンカンも日本の移民さんたちが育てたくだものの一つで、他に富有柿、いちごと枚挙にいとまがありません。

出勤は社用車で。海外駐在ならではのぜいたくです。車には交通安全祈願の大きな成田さんのお守りがぶら下っています。本社の親心です。それにしても、この通勤途次のこの町の事故の多いこと。毎朝何か目撃します。それに道路の混みよう十五分のところが四十五分もかかります。現在、ダイナミックに建設されている高架道路と、当国最初の地下鉄が市民の待望です。車の中ではカーラジオをつけっ放してブラジル、ポルトガル語の耳学問。また目にはいるタバコの広告であれ、乾物屋の看板であれ、みな語学の教科書がわりです。

送電用鉄塔の大口商いを

今朝の仕事も、入電テレックスの整理から始まりました。うまいもので、ブラジルと日本の時差はキッカリ十二時間です。日本の午後八時が当地の午前八時です。その意味で伯国と日本でこれと狙った商いを不眠不休で追求しているともいえましょう。

電報のひとつは、ごく最近サンパウロ州電力局むけにわが社が契約調印した送電用鉄塔の大口商い関係。さっそくテレックスを受信から発信に切り換え、ワシントンに出張中の担当者に転電。

お父さん、ニ、三年前世界でも最大級の発電所のこと、お便りしたことありましたね。ブラジルの内陸を大迂回してアルゼンチンのラ・プラッタ河に注ぐリオ・パラナ川。その水量をエネルギーとするイーリャ・ソルティラ水力発電所のこと。あの時の発電機器商いの成功が、今、その送電鉄塔の成約に結び付いたのです。

さて、私の主な担当は経理と総務です。女房役です。献立の心配こそしませんが、いったい君の仕事は何だと問われても、指を折って数えられない種の仕事です。決してハデではありませんが、会社の経営に直結した大切な仕事です。

ブラジルの南伯綿花の商いも、今収穫の晩秋を迎えて（日本は若葉ですね）正に佳境にはいりました。受け渡しの大黒板には船積みのスケジュールがつぎつぎと書き込まれていきます。精綿玉の売手、買手。船会社、乙仲。来客が今日も絶えませんでした。おかげで六杯のカフェジーニョ（小さなカップのコーヒー）を付き合ってしまった、と昼食前に桑名さんはゲップです。

水曜と土曜には昼食で元気をつける

今日は水曜。土曜とこの水曜はブラジル人が昼食で元気をつける日です。すなわちフェジョワーダをたらふく食べる日。これは当地のご馳走の代表選手ですが、豚の耳鼻喉口、尻尾とあらゆる臓物を黒豆でグツグツ塩味に煮込んだも

A contribution by the member
会員寄稿

のです。これを油ご飯にまぶして食べる。素焼きの壷のまま供されるのですが、これがブクブク溶岩のように煮え立っていないとダメです。なんでもアフリカ土人の料理だとか、農業奴隷が発明（？）したものだとか言われていますが、慣れるとおいしいものですよ。

午後二時。リオ・デ・ジャネイロ市へ出張の佐久間君より長距離電話。米国産小麦の対伯輸入、三国間商い。何と落札。大口です。受話器を握る桑名さんの顔を見ればわかります。不思議な話ですが、国土面積は日本の二十二倍強にして人口は日本より若干下回るこの農業大国ブラジルは（今、工業でも南米の日本を目指しています）、小麦をいまだ主要輸入品リストの上位に余儀なくされているのです。東京本社、ニューヨーク日綿とトリオを組んでの本日の入札。初参加で見事落札。朝霧で飛行機が出ないと入札に遅刻するからと、昨夜真夜中のバスで佐久間君は出張したのでした。それにしても、何と落札者発表の手際の良さ。パンのことですからね。

興奮さめやらぬまま午後の執務です。いつものことながら。時計が二時をさした途端、ジャンジャン電話がかかってきます。銀行あり、得意先あり。日本語あり、ブラジル・ポルトガル語ありです。えらいもので、最近では電話のジャンを聞いただけで、だれが何の用件でなどと頭にピンと来、それならこう応答しようと、瞬間、策をたてながら「アロー（もしもし）」と受話器をとる。ときには正にドンピシャリと勘が当たったりします。

ブラジル製、虎屋の羊かんも

退社の定刻は六時ですが、わたしたちはどうしても二、三時間遅くなります。今日一日の成果、経過が架電の原稿となり、副支配人の添削、これをテレックスにたたき込む。発電はサンフランシスコ店の仲介で、世界の日綿各店に流してもらいます。

このテレックスの読取針がテープの点字を快調に追って、長電文を読みとってゆく音は、疲れた耳に一種の音楽でさえあります。今日のテープは当店に着任一か月そこそこの坂上君が慣れない手つきで、一生懸命にたたいたものですが、どうしてどうして、殆どミスがない。着任早々、全てが本番です。今日は小麦のこと、新綿、初の船積み案内電。珍しく全てが明るいメッセージ。こんな時は少々遅くなっても、疲れた気持ちがしないものです。

九時、本日の仕事納め。車が来るまで街角のバール（立ち飲み、立ち食いの何でも屋）でセルベージャ（ビール）の乾杯。今日は皆、大ジョッキをあけました。

お母さん、今日の社宅の夕ご飯、お教えしましょうか。いわしとサツマイモの揚げ物、それにコンニャク、里芋、大根、ちくわの関東煮です。こちらの里いもも柔らかく、日本と同じ味ですよ。それに、醤油だって味噌だってブラジル製。食後のお茶には虎屋の羊羹。これもブラジルの小豆で作った、ブラジルの羊羹です。

二階の部屋でこの手紙を書いていますと、階下で電話の鳴る音。桑名さんのアテンドする声

A contribution by the member
会員寄稿

が大きく響いてきます。例によって、奥地の日綿オンダベルデ精綿工場長の大西君からの長距離電話です。農家との実綿の値決めが微妙な時期に入っているのです。こちらからも明朝早々の T 紡績への出荷のことなど、緊急指示されています。

　ご両親様。本社からの内命もあり、わたしも間もなく帰任です。今年のお盆は日本です。その時ゆっくりお話ししましょう。つもる話は十年分たっぷりたまっています。
　それでは、くれぐれもご自愛のほどを。

備考：
こちらの社内報には、以下の記事の掲載がありました。ご興味を持たれました方にはコピーをお送りいたしますのでご連絡くださいませ。
最初のページに神林正教取締役社長始め 23 名の役員の顔写真
「これからのマイホームを考える」と題された座談会
　出席者：矢吹敦司　東京建設部 / 村岡龍馬　東京建設部 / 上田誠治　豊国不動産　東京
　　辻 興惣左衛門　豊国不動産　大阪 / 芝田龍三大阪建設部
　　沢井昴三　大阪建設部
「世界通貨情勢と円切り上げ問題」 大阪総務部調査課
「宙に浮いた物置」森井英雄　大阪本社　（2 軒にまたがる物置の使用者と所有者問題）
「邪馬台考」大西喜也　東京本社
「女性とカメラ」森田喜久代　渡辺橋分室
「コンピューターサロン　商社業務の機械化とニチマックス計画」南部晴雄　東京
「大阪本社・内地繊維総務部第一課　紹介」 紹介文と課内の方々 14 名の顔写真
「同好会めぐり」大阪ボート部　　佐藤建義　棉花部

以上

第２２回ニチメン大阪社友会
「秋の親睦ウオーキング」ご報告
（2023 年 11 月 1 日開催）

コロナ対策が２類から５類に移行したことにより、種々の制約が外されて国内移動が活発化していることに加えて、インバウンドの増加に伴い名の通った観光地にはコロナ前に劣らない人出が見られるようになりました。

今回は紅葉を求めてのウオーキングではありますが、極力人込みは避けてゆっくりと秋の一日を満喫していただけるよう、「知る人ぞ知る」、「隠れた景勝地」なるところを求めて、京都西山に鎮座する三社寺を訪ねていただきました。

主催者を含めて 16 名の参加者に定刻、ＪＲ向日町駅に集まっていただき路線バスで 20 分余り、一路西山の山裾を目指しました。市街地を離れ最寄りのバス停で下車後約 10 分、緩やかな上り坂を歩いていくと、京都縦貫自動車道を間近に望む最初の目的地、大原野神社に到着です。

11 月 1 日という時期に加え、記録ずくめの連日の高温から、紅葉には少し早いかもと危惧はしていたのですが、残念ながらまだまだ青葉が勝ち、僅かばかりの紅葉が顔をのぞかせているというのが率直な印象でした。一の鳥居をくぐって階段を上り、本殿前の三の鳥居までの表参道は青もみじと紅葉の走りに覆われたトンネルといった風情で、全てが紅葉した時節にはさぞかし印象的な景観になるものと期待できました。本殿でお参りを終え、満開期間が短く「幻の桜」ともいわれる千眼桜（せんがんざくら）、奈良の猿沢池を模して造られたという鯉沢池（こいさわのいけ）等を再度鑑賞して一の鳥居まで戻ります。

大原野道に出たところで進路を右手に取り、次の目的地勝持寺に向かいます。バス停から続く緩やかな上り道を 200 メートルほど歩いて道なりに右に曲がると、20 段余りの石段の先で出迎える仁王門を仰ぐことができます。応仁の乱の兵火を免れたという星霜を経た外観の仁王門をくぐり、今度は竹林が主になった参道を境内に向かいます。

受付を終えて境内に入ると、桜ともみじの木がそれぞれ 100 本程度植わり、木漏れ日に包まれた静謐な空間にホッと一息を入れることができました。

鐘楼の周りをはじめそこかしこにベンチが据えられており、昼食に相応しい時刻になったこともあり、持参していただいた食事を摂ってもらいました。食事を終え、瑠璃光殿に安置してある 3 体の重要文化財をはじめとする宝物を拝観の後は、最後の目的地を目指してもときた参道を下っていきます。

大原野神社まで戻ると、道を挟んで向かい側にある正法寺は目と鼻の先で、社家川に架かる極楽橋を渡り参道・通用門を経由して受付へ。

本堂前で靴を脱ぎ、本尊を拝観しつつ縁起を拝聴します。次に場所を本堂の南に位置する宝生殿に移し、東山連峰を借景とし枝垂桜と特徴のある庭石を並べた石庭を愛でるとともに、吹き渡る秋風に暫し寛いでいただこうと予定していたのですが、予期せぬ事態に予定変更を余儀なくされました。

カメムシの大量発生です。どういうわけかガラス戸を開けるとカメムシが室内に侵入してくるので、少しの時間・少しの幅でしかガラス戸を開けることができません。油断をするとたちどころに侵入するため、異臭を出さぬように戸外に排除する作業に追われ、凡そ寛げたものではありませんでした。建物・庭共に手入れが行き届いており、復路のバスを待つ間一日の疲れを癒していただくに相応しいところと考えていただけに残念でした。

バスは 1 時間に 1 本のため、バス停までの時間を計算し辞することとしました。今回のコースは山手を歩くため、勾配の急な箇所もあり移動距離は今までに比べて少し短めに設定しましたが、健脚の方々とっては物足りなかったかと思います。とりわけ昨秋に続いて参加いただいた竹田さんには、ご期待に沿えなかったように思われました。山城巡りがご趣味とお聞きしていた足取りは益々お元気なご様子で、次回は北関東方面に出かけられるご予定とか。

全行程を終了後、例によって反省会を設け次回春の行先を検討しました。いくつかの候補地が出されましたが、もう少し検討するとともに、会員の皆さんからのご希望があれば併せて検討しますので、ご連絡いただければ幸いです。

【担当者：吉田修一 [redacted]、日野育子 [redacted]】

社友会からのお知らせ

○会員動静（令和５年11月１日現在）

☆令和５年　会員登録数　　３６８名（内、新規入会者１名、名誉会員　７５名）
ご逝去者　９名　（内、本年度ご逝去者　３名）

☆新規入会者

会員番号	氏名	出身部
９３４	霜村加津代	木材

○令和４年度（令和４年７月～令和５年６月）年会費入金状況

会員数	入金済会員数	名誉会員数	未納付会員数
３６８名	２８９名	７５名	４名

☆令和６年１月に対象となられる慶祝者のお名前（敬称略）

（白寿）横田穣治
（米寿）青木光弘、池内孝文、大久保貫太郎、大谷正樹、奥田恵造、小林英一、
米田信一、斎藤　久、塩見宗太郎、白坂泰之、高木啓志郎、高橋康之、
宅　哲男、龍田政彦、玉田恭子、田村進平、津田和男、寺崎保典、
殿護隆司、富場勝利、中山トメ子、西山　隆、林喜久雄、半林　亨、
三浦秀信、安森敏博、山木信一郎、山村　保、山邑陽一、渡邊城次

上記、米寿となられる方々は名誉会員として来年度よりの年会費は不要となります。

☆令和６年度（令和６年７月～令和７年６月）年会費納入済会員（敬称略）

23　粟津盛子、66　井上行芳、886 上田雅司、85　魚本健太郎、812 大藤公彦、
818 岡崎謙二、178 川北初美、205 木村幸史、299 杉江信雄、311 千束恒夫、
327 高橋　正、821 谷祥四郎、379 中所　壮、390 土屋賢二、793 寺田哲郎、
731 中沢　昭、445 中村文子、928 日野育子、525 廣岡義夫、797 藤井兼盈、
571 松岡雄治、594 美川広則、775 南千恵子、618 村上勝治、802 矢嶋正孝、
756 山田裕之、921 山野宝宏、869 吉岡辰雄、702 米村太一
以上２９名

☆令和５年度にご寄付を頂いた方々（誠にありがとうございました。）

ご逝去された小塚孝様、小泉主計様、石田一雄様、徳永俊彦様、芦村八郎様、
杉本勉様、牟禮忠司様のご遺族さまよりご寄付を頂きました。
又、宅　哲男様、玉田　恭子様、田村　進平様より納入済会費をご寄付頂きました。

○訃報　（会報３２号に未記載及び、発行後にご逝去が判明した方々）

ニチメン大阪社友会

氏名	出身部門	逝去年月	享年
仲谷　泰郎	繊維	令和４年 12 月 25 日	93 歳
小塚　　孝	繊維	令和５年 01 月 30 日	93 歳
上田　良三	木材	令和５年 04 月 18 日	90 歳
小泉　主計	機械	令和５年 05 月 08 日	93 歳
石田　一雄	木材	令和５年 05 月 09 日	77 歳
徳永　俊彦	元役員	令和５年 06 月 06 日	84 歳
芦村　八郎	人事	令和５年 07 月 05 日	85 歳
杉本　　勉	繊維	令和５年 07 月 20 日	92 歳
牟禮　忠司	機械	令和５年 08 月 22 日	94 歳

ニチメン東京社友会

氏名	出身部門	逝去年月	享年
山田　寛治	プラント	令和５年 01 月 08 日	87 歳
宮田　信雄	―	令和５年 01 月 10 日	96 歳
小林斉之助	非鉄	令和５年 04 月 05 日	91 歳
廣内　卓生	原動機	令和５年 05 月 ―	74 歳
渋谷　　義	食糧	令和５年 05 月 16 日	88 歳
富永　雅敏	食糧	令和５年 05 月 26 日	69 歳 (非会員)
西村　　弘	非鉄	令和５年 07 月 12 日	83 歳
内海　和男	経理	令和５年 07 月 24 日	85 歳
糸井　康雄	機械・建設	令和５年 09 月 01 日	90 歳
山内　伸介	合樹	令和５年 09 月 04 日	73 歳 (非会員)
大場　禎治	経理	令和５年 09 月 20 日	88 歳
倉持　次雄	食料	令和５年 09 月 30 日	86 歳

令和５年度ニチメン大阪社友会会員名簿

（太字は名誉会員）

青木　光弘
青山　和子
赤木　保司
安芸 美千代
秋田　久子
浅井　十一
浅野　高代
穴水　鍈一
粟津　盛子
池内　孝文
池田喜久子
池田　文子
伊阪　千秋
石川　秀雄
石川　裕樹
石黒佐知子
石黒　啓一
石原　愛子
伊豆本善夫
伊瀬　和良
伊藤　豊
今井　健児
伊豫田　哲
磯林　市郎
市川　篤
市川　恭平
市礒　正夫
市田　謙治
伊藤　哲三
稲垣　允子
稲治　寿
井上　行芳
井上　裕
井上　好子
今中　利昭
入船　佳樹
岩木　直純
岩田録土郎
岩田　由佳
上田　雅司
上房　康成
植西　武司
上野　英治
植本　博
魚本健太郎
碓井　恭裕
内田　博夫
内田　満
宇都宮　暉
遠藤　雅也
恵美　理恵
大河原林次
大久保貫太郎
大河内修二
大谷　昭三
大谷　林
大谷　正樹
大塚　敏雄
大藤　公彦
大西　隆夫
小笠原　功
大庭　尚子
大場　俊雄
大山口一弘
岡崎　謙二
岡島　岩男
岡　晴一郎
岡　図南雄
岡田栄津子
岡村　俊三
岡村　誠二
岡村　秀雄
岡本　幸雄
荻原　武志
奥田　雅治
奥谷　俊章
奥田　恵造
奥野　貞夫
小倉　知子
尾子　明
越智　隆
小野　悌司
折尾　敏和
鍵本　孝三
梶谷　浩嗣
梶田　祐子
片岡　隆
加知　久一
加藤　紘一
門田　和子
金久　正臣
金森　巌男
金谷　安勝
金子　健治
川北　初美
川口　公生
川島　園枝
川瀬　明彦
川田　英之
神田　久大
川村　耕造
菊澤　淳
菊地　孝
岸田　壽子
北川　剛
北川　元衛
吉川　孝
木村　武志
木村　幸史
清飛羅さとみ
久野　安正
久保田君子
久谷　淳子
内蔵田　卓
黒磯　哲雄
黒田　信宏
桑島　孝志
桑原　艶子
河野　欣司
高野　伸生
小上馬昭雄
後藤　政郎
小林　英一
小林　充幸
近藤　赳夫
米田　信一
酒井　邦子
斎藤　久
坂上　剛
坂田　善則
崎野　有子
櫻井　秀子
佐竹　紀男
佐竹　博司
佐藤　史郎
佐藤　建義
佐野　信一
佐溝美登利
澤井　昂三
澤山　操
塩崎　義雄
塩見宗太郎
嶋岡　房子
島　悠紀夫
嶋田　和哉
島田　忠男
清水　浩
霜村加津代
荘司　和樹
白井　厚三
白坂　泰之
白水　汎
新家世津子
末信　楯次
杉江　信雄
杉山　文子
杉山平太郎
炭谷　陽吉
千束　恒夫
高尾　博子
高木啓志郎
高嶋　忠夫
高橋　正
高橋　康之
高次　保久
高畠　健造
高道　利夫
宅　哲男
竹谷　良博
竹本　史生
竹田　善英
田嶋　一恵
立花三重子
龍田いつよ
龍田　誠一
龍田　政彦
立田由貴子
田中佐知子
田中　三郎
田中　武俊

田中　二彦
田中　長典
田中　　実
田中　秀明
谷口　　清
谷口　雅美
谷　祥四郎
谷本　義夫
谷　　裕子
田上　正靖
田淵　弘通
玉置　和夫
玉田　恭子
田村　進平
中所　　壯
辻川　　洋
辻本　　明
辻山　隆博
津田　和男
津田　心美
津田　忠佑
土屋　賢二
津村菜穂子
鶴井　義子
鶴谷　武信
寺崎　保典
寺田　哲郎
寺野　幸夫
東川　隆司
堂脇　一見
徳永　万里子
戸田　茂勝
殿護　隆司
冨田　邦子
富場　勝利
頓行　照子
直江　義雄
中江　永好
中尾　良子
中沢　　昭
中谷　容子
中野　雄次

半井　靖郎
中村　浩士
中村　文子
中村　吉夫
永山　克彦
中山トメ子
中山　温亘
名和　克己
新川日出夫
新實　順子
錦織　昌一
西澤　隆司
西野　弘六
西田恵美子
西村　公作
西山　　隆
温品　廣助
野坂　修平
野田　　稔
野村　隆治
萩原捷一郎
橋本勝太郎
橋本　典子
長谷川　達
畑　　邦子
服部　伸志
放岩　卓志
花輪　覇弥
馬場　宏三
濱田　誠紀
濱田　　正
濱野　真弓
林　喜久雄
林　　明
林　喜久雄
林　　靖
早瀬　三郎
原　　榮
播田　　努
半林　　亨
日野　育子
姫井　敬之

兵頭　俊幸
日余千鶴子
平井　啓次
平田　泰祐
平野井秀明
廣岡松治郎
廣岡　義夫
廣瀬　　彰
藤井　兼盈
藤井　利雄
藤井　道久
藤澤由紀子
藤崎　恭典
藤田　康弘
藤野　義夫
藤本　和男
藤本　景子
藤原　純子
藤原なつよ
堀　　啓子
本田　眞二
本東　千沢
前嶋　美和
前田　和代
前田　照代
槙　　啓
牧野　健治
又吉　晴美
松岡　雄治
松川　洋己
松下　和生
松田　悦子
松谷紳一郎
松村　信男
松本　芳格
丸尾　嘉重
丸橋　伸好
三浦　秀信
水江　誠一
美川　広則
道上　正男
美濃部幸夫

溝口　正子
南　千恵子
南　　美樹
美馬　孝通
三村　容子
三宅喜久子
三宅　通方
三好　康司
宮崎　　勝
宮永　大助
宮西信一郎
向井　健市
村上　勝治
村上　英樹
村上　幸史
村松　正司
森　　慈郎
森井　勇雄
森岡　豊美
森田　政利
森　　輝幸
森　かおる
森　　道夫
八木　郁充
谷舗　弥生
矢嶋　正孝
安田　裕次
安森　敏博
山香　和代
山岸専太郎
山木信一郎
山口　敏夫
山崎　幸子
山﨑　佳美
山敷　貞彦
山地　正房
山田　裕之
山出　　信
山中　利一
山中　太一
山野　宝宏
山野ひろみ

山村　　保
山邑　陽一
山本善一郎
山本　敏夫
山本　　浩
山本　正巳
由本　宏二
横田　穣治
吉岡　辰雄
吉田　修一
吉村　隆彦
吉本　邦晴
四ツ碇明也
米原　正博
米村　太一
若宮　勝治
脇屋敷憲嗣
鷲田　禎二
渡邉　城次
渡邉　　康

世話人連絡先

世話人名	（出身本部・部）	電話番号	メールアドレス
伊豫田　哲	（建設本部）	[redacted]	[redacted]
岩木　直純	（電子電機本部）	[redacted]	[redacted]
岡崎　謙二	（繊維機械部）	[redacted]	[redacted]
阪上　　剛	（化学品本部）	[redacted]	[redacted]
千束　恒夫	（運輸保険部）	[redacted]	[redacted]
龍田　誠一	（プラント部）	[redacted]	[redacted]
西田恵美子	（木材部南洋材）	[redacted]	[redacted]
林　喜久雄	（合成樹脂部）	[redacted]	[redacted]
畑　　邦子	（プラント第一部）	[redacted]	[redacted]
日野　育子	（海外経理部・家族）	[redacted]	[redacted]
藤井　利雄	（経理部）	[redacted]	[redacted]
松下　和生	（建設本部）	[redacted]	[redacted]
森　　慈郎	（合成樹脂部）	[redacted]	[redacted]
吉岡　辰雄	（繊維貿易）	[redacted]	[redacted]
吉田　修一	（原動機部）	[redacted]	[redacted]
渡邉　　康	（財務本部）	[redacted]	[redacted]

編　集　後　記

投稿いただきました会員の皆さまはじめ、関係各位のご協力のお陰で、本日会報３３号をお手元にお届けする事が出来ました。改めて心よりお礼申し上げます。

３２号から皆さまのご要望を受け写真のカラー掲載を始めましたが大変ご好評をいただいております。

本号も引き続きカラー写真を使用し、総会の模様や楽しくお過ごしいただいている懇親会の雰囲気を、お届けできて良かったと思っております。ウオーキングの報告でも撮影された人物、景色がより鮮明に編集できたと思っております。

更に 本年百寿迎えられ、来年白寿、米寿を迎えられる会員の皆さまの慶事をお知らせ出来ました事は、誠にうれしい限りです。

慶事をお知らせするたびに、健康の大事さを再確認する思いですが、会員の皆さまには充分健康に留意され、来年の新年互例会に多くの皆さまが、お元気にご出席される事を心よりお待ち申し上げます。

今後とも会員の皆さまには会報への寄稿やご意見を賜りたく、また同好会の活動への積極的な参加をお願い申し上げます。

編集チームよりのお願い：

次号（34 号）の紙面を充実するために皆様からの多数のご投稿をお待ちいたしております。会員相互の情報提供、随筆、書評、エッセイ、同好会・同期会・OB 会報告等、ご投稿いただきますようお願いいたします。

１）字数　　：原則自由ですが、１～２ページに収まるよう、４００字詰め原稿用紙
　　３～４枚程度にお願いします。
２）体裁　　：手書きで勿論結構ですが、原稿をメール添付で送付いただければ助かります。
３）送信方法：E メール添付、または FAX 或いは郵送
４）送信先　：メールアドレス　千束　nobe_sop@yahoo.co.jp
　　または、
　　ニチメン大阪社友会事務所
　　〒５３０－０００１　大阪市北区梅田３－３－１０　梅田ダイビル 18 階
　　FAX （０６）６４５５　４０２４

ニチメン大阪社友会 会報　No.３３

発　行　日：令和５年１１月３０日

発　行　者　：ニチメン大阪社友会
〒５３０－０００１
大阪市北区梅田３丁目３番１０号　梅田ダイビル１８階

発　行　人　：岡崎　謙二

編　集　担　当

リーダー：千束　恒夫

メンバー：吉岡　辰雄、畑　邦子

ホームページ担当：冨田　邦子

総務部アドレス：nichimenshayukai@outlook.jp

印　刷　所　：日本紙交易株式会社（担当：前田　幸裕、榊原　芹野）
〒５４１－００４３
大阪市中央区高麗橋４－１－１大阪興銀ビル１０階